こや通信（名称募集）（公開版）NO.３１　　富士宮北高校校長室

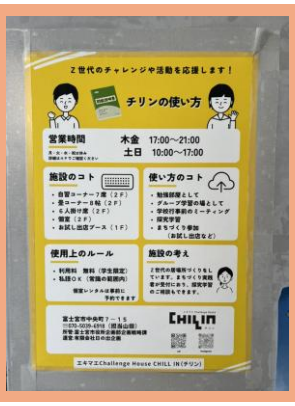
エキマエ Challenge House CHILL IN に、なんとなく行く

令和８年１０月５日

緩やかに、適度に、リラックスに、「チルい」の実践。



９月27日（日）本校生徒会は、有志企画で「神田川リバーナイト ～守る川から誇れる川へ」を行った（https://www.instagram.com/fujinomiyacity/ 富士宮インスタ）。この素敵な内容は、今年度県教委の支援を受けて実施できたが、次年度以降は未定。なんとかならないかと思っている。この日、わたしは、フラッと、エキマエを通り、チリンを見に行った。中に入ったり、イベントに参加したりする訳ではない。遠くから見ただけである。先日、本校と静岡県立大学で実施したイベントの際には、１階にお邪魔した。工具やおもちゃ面白いものが増えていて、「秘密基地」感がたまらなくカッコよかった。この場所は、富士宮市が、新たなまちづくりの社会実験として、市内外の学生、社会人、移住希望者等をターゲットにしたチャレンジを支援するイベントやプログラムを行う多世代交流拠点として運営している。高校生にも開放されている。「何かにチャレンジする企画を支援してくれる？ん？なんでもありか？」そんな気にもなる。



そして、この場所チリンというらしいが、チリンって何？chill in？Chill in ってリラックスするという意味らしい。そういえば少し前から「チルい」音楽って名称があったな。リラックスしに行く、少しゆるい感じで見にいく、そんな場所って良いなと思ったのである。生徒会企画は、浅間神社のふれあい広場で行った。チリンに、なんとなく行ってみようかな。イオンモールに行ったとき、晴れているし、ちょっとチリンあたりまで散歩してくるか。駅に行った帰り道、エキマエコンビニ寄った後、チリンのぞいてみるかな。「なんとなく行く」って素敵だな。なんとなくって、偶然を起こすきっかけだな、そんなこと思った。本校にはもうすぐアサギマダラが飛来する。「アサギマダラと写真撮りませんか企画」とか持ち込んでも良いのかな。なんとなく思った。

「一歩、前へ」から「常に、前へ」へ

９月29日（火）静岡新聞の東部版に富士宮市の新たな観光振興として、「ジェラート街道」の命名の記事があった。県内有数の生乳の産地である富士宮市には、新鮮なミルクを使ったジェラート販売店が点在していることから各店舗を結んで、訪れてもらおうというものである。「富士宮プリン」で夏にイベントが行われたことを思い出す。「スイーツのまち」を促進するための試みでもあるそうだ。富士宮は、これまでに、「焼きそば」での Ｂ 級グルメ日本一もそうだが、古くは、日本一富士溝など、魅力を最大限いかすたゆまぬ努力をしているのである。

さて、今、３年生は進路決定に向け、大切な時期を迎えている。私も様々な形で携わっているが、できるだけ「厳しく」当たろうと思っている。就職者の面接練習をした。この売り手市場の中でも、内定を頂けなかった生徒もいる。売り手市場というのは、受ければ受かるというのではなく、多くの生徒を面接し、将来の会社を託すことのできる人材を企業も探しているということがわかる。保護者の皆様、教員は生徒が確実な一歩を踏み出せるよう、最後の後押しをしていることご理解ください。時に厳しいこともあるでしょう。１８歳はもう大人です。進学を目指す人たちは、ここからのラストスパートは、あなただけではありません。本校だけではなく、県内、国内、今や世界にいる１８歳が必死に頑張っています。その中で、しっかりと自分の進路を叶えるためには、相当の努力が必要と思って、常に前への意識を持ちましょう。「一歩、前へ」から「常に、前へ」。宮の「ジェラート街道」は甘さの裏には様々な努力があるのだから。



ネパールとのつながり。緩やかなつながりだからこそ。

外務省の海外安全ホームページ（https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcspotinfo_2026C039.html）によるネパールの状況が次のように示されている。「8月26日、ネパール中部のラスワ郡及びその周辺地域において、大規模な洪水、土石流が発生しました。関連する各地で、交通網、通信網の断絶等、甚大な被害が発生しています。ネパール政府は、すでに死者1000人以上、行方不明者4000人に近いとされ、災害に関連する河川の水位が増加傾向を示しているとして、被災地や河川沿いの地域の住民等に対し細心の注意を払うよう注意喚起を行っています。」まだ、公式に要因が解明されたわけではないが、氷河の大規模な崩壊がその一因にあるようだ。

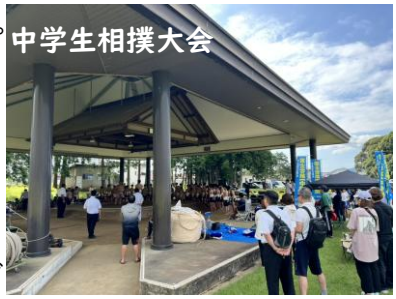
ネパールは、国土は約14.7万㎢（北海道の約1.8倍）、人口は約3000万人であり、ヒマラヤ山脈、エベレストを国内に持つ国家である（ウィキペディア）。昨年の通信（10号）でも紹介したが、令和7年3月23日富士宮市は、マンダン・デウプール自治体と都市提携を締結している。ネパールの首都カトマンズから東に位置し、その中心都市はナガルコットで、カトマンズ国際空港から約 30km の距離だそうだ。ナガルコットは、ネパールで最も人気のある観光地で、ヒマラヤ山脈や世界文化遺産のカトマンズの渓谷の景色を眺めることができ、日本一の富士山をもつ宮とつながるきっかけとなっている。令和4年10月エベレスト写真展を駐日ネパール大使が訪れたところから、提携が模索され、令和6年9月には富士山と名月を愛でる会などにネパール大使夫妻が招待されるなど、親睦を深めてきた。本校では、商業科の山田佳代教諭が、自ら受け持つ「課題研究」において、生徒が実践的な取組を行い、相互に贈り物をし合うなどして交流を持った。



令和7年3月23日、富士宮市須藤市長は、マハカリセカンダリースクールマンダン・デウプール第４区校を訪問し、富士宮北高校からの手紙と筆記用具を寄贈している。10月20日～31日には、本校写真部の協力を得て、富士宮北高内でネパール写真展を開催した。また、31日には、富士宮市国際交流アドバイザーの川口敏彦氏が写真部を対象に国際交流の意義及びネパール文化について講演していただいている。そんなことからネパールのことは他人事には思えないが、直ちに駆けつけることはできない。緩かなつながりだからこそできることはないか？そんなことを日々思う。

校舎内を「なんとなく歩いて」みる

10月3日、土曜日であるが、本校は活気がある。なんとなく嬉しくて歩いてみる。野球部、男子ソフトテニス部、陸上部（草薙には大会参加者がいる。）と大きな声で挨拶してくれる。相撲部は中学生大会のお手伝いと中学生の勧誘だと説明してくれ、男子バスケは、練習試合で気合い入った声を出し、女子バスケは、熱心なコーチのもと、今日もキビキビと動いている。男子バレーは、午前は自主練だそうで、自ら練習する生徒達に会った。今日は午後から練習だそうだ。


中学生相撲大会

柔道部には、工事で迷惑をかけているが、元気に活動し、弓道部は静寂の中で、弓をひく姿が凛々しい。サッカー部、女子ソフトテニス部は、対外試合だそうだ。校内を見ても、ビジネス部はドローン映像編集講義、サイエンス部は対外発表会。様々な活動を生徒、そして、熱心に指導する教員がいる。そして、吹奏楽部。「富士宮吹奏楽部」として、本校に加え、富士宮西高の生徒、富岳館高の生徒と合奏をしている。それを指導する顧問、その「宮」としての音色に、涙が流れた。


宮北、宮西、富岳の合奏

校舎の改善では、中庭に芝生が張られた。中学生に、お披露目したかったが、徐々に使えるようになるが今は、養生期間らしい。


完成間近の中庭芝生

入学の頃には、しっかり根づいているだろう。生徒の皆さん、そして未来の宮北生の皆さん、できた中庭で共にランチをとれること楽しみにしてほしい。「なんとなく、当たり前にある日常」がやっぱり尊いと思う一日であった。